

景観への配慮事項適合チェックリスト(対象事業:スポーツ・コンベンションセンター整備事業)

項目			事業者ご自身でご記入いただく欄		適・不適等
			チェック内容（各欄ごとにいずれか一つの口が■とならなければ「適合」となりません）	根拠資料	
(1)	高さ	①	■事業箇所の市景観計画における建築物等の高さの限度(45m～60m) (計画している建築物の階数: <u>3</u> 階、計画している建築物の高さ: <u>約28m</u>) ☐ その他 ()	提案書P3 中段 断面図	適
		②	■ウォーターフロントパーク内における小規模建築物等は、水際線のプロムナードに配慮し、周囲に圧迫感を与えない程度の高さ(東屋や樹木の高さ3～4m程度)とする。 ■ウォーターフロントパーク内ではないため、当該配慮事項は対象外 ☐ 建築物等の対象物: () , 計画している工作物の高さ: () m		対象外
(2)	のぞみの場からの見通し	①	■「のぞみの場1」 ・眺望に配慮する範囲・方向の建築物等については、港の活動の眺めを構成する既存の港湾施設と同程度の高さとする。 ■「のぞみの場1」からの眺望に配慮する範囲・方向ではないため、当該配慮事項は対象外 ☐ 既存の港湾施設の高さ: () m, 計画している工作物の高さ: () m		対象外
		②	☐ 「のぞみの場2, 3」からの景観に配慮する範囲・方向ではないため、当該配慮事項は対象外 ■壁面位置のセットバック(臨港道路本港区線からセットバックの距離: 約18m～35m) ■形態意匠の工夫 (マイアミ通りからの桜島への眺望を確保する配置計画・形態意匠。セットバックした建物配置と朝日通り側に肩を下げた片勾配の屋根で桜島への視線を遮らないように工夫している。) ■外部と内部空間の連続性の演出 (「のぞみの場2」の朝日通りに対して建物をセットバックし多目的広場を設けることで、イベントや日常での賑わいがまさに開かれる計画としている。中央のパッサージュ広場を多目的広場に隣接して設けつつ、大きなスロープで2Fのデッキ空間と緩やかにつなぐことで、外部と内部空間に連続性をもたせている。) ■外部と内部空間の連続性の演出	提案書P1 中段右透視図 及び ⑨テキスト	適

景観への配慮事項適合チェックリスト(対象事業:スポーツ・コンベンションセンター整備事業)

項目			景観形成の配慮事項	事業者ご自身でご記入いただく欄		適・不適等
		チェック内容（各欄ごとにいずれか一つの口が■とならなければ「適合」となりません）		根拠資料		
(3)	オープンスペース回遊性の確保	①	・水際線のプロムナードにおいては、界隈性・賑わい性を演出するため、比較的狭あい曲線的なものを基本とし、立ち止まって錦江湾・桜島への眺めや活きた港の活動を感じられる場所(たたずみの場口1～5)及び鹿児島旧港施設の歴史的建造物等をつなぐ回遊性を確保する。	■水際線のプロムナードやたたずみの場口1～5及び鹿児島旧港施設の歴史的な建造物等をつなぐ回遊動線に関連する範囲ではないため、当該配慮事項は対象外 □回遊性の確保（ ）		対象外
		②	・マイアミ通り、朝日通り、みなと大通りから、ウォーターフロントパークや水際線のプロムナードをつなぐ回遊動線(めぐりの路)の連続性に配慮する。 ・また、立ち止まって錦江湾・桜島への眺めとともに、本港区エリアのまちなみや海への開放感、港の活動や市街地における活動を感じられる場所(たたずみの場口6～11)においては、ウォークアブルな空間や居心地の良い滞留空間を創出するとともに、オープンスペースを確保する。 ・なお、マイアミ通りからウォーターフロントパークに至るドルフィンポート跡地内の回遊動線は、著しく回遊性を損なうことのないように配慮する。	■回遊動線の連続性 (周辺敷地のめぐりの路と、2Fの桜島テラスと多目的広場、パッサージュ広場を大階段やスロープによりつなぐことで、敷地全体が「立体的な公園」のように回遊できる場となり、エリア全体の回遊動線の連続性を担保する計画。) ■たたずみの場口6～11において、ウォークアブルな空間、居心地の良い滞留空間を創出し、オープンスペースの確保(桜島テラスや多目的広場等、桜島や錦江湾を望むことができるオープンスペースを確保している。) ■マイアミ通りからウォーターフロントパークに至るDP跡地内の回遊性の確保 (マイアミ通りを抜けた先にパッサージュ広場を設け、広場を介してウォーターフロントパークへと連続するまちの居場所として計画。) □その他（ ）		提案書P1 ①

景観への配慮事項適合チェックリスト(対象事業:スポーツ・コンベンションセンター整備事業)

項目			景観形成の配慮事項	事業者ご自身でご記入いただく欄		適・不適等
				チェック内容（各欄ごとにいずれか一つの口が■とならなければ「適合」となりません）	根拠資料	
(4)	水際空間	①	・水際線のプロムナードとして、「鹿児島港発祥の地」の歴史を伝える赤灯台、歴史的石積み護岸、白灯台の保全・活用を図る。	■水際線のプロムナードに面しておらず、歴史的建造物の周辺でもないため、当該配慮事項は対象外。 □水際線のプロムナードとして、歴史的建造物の保全・活用 （具体的に、○○で活用している。）※（ ）内に具体例を記入すること。		対象外
		②	・居心地が良く快適な水際空間をつくるため、水際線のプロムナードに面する敷地の建築物等は、オープンスペース等を介し建築物内外が一体となった開放的な空間を確保する。	□水際線のプロムナードに面する敷地等への開放的な空間を確保 （具体的に、○○で開放的な空間を確保している。）※（ ）内に具体例を記入すること。		
(5)	まちなみ形成	①	・地区全体として、調和のとれた沿道景観を形成するために、沿道建築物の壁面後退や、オープンスペース・セミパブリック空間の充実などにより、賑わいを創出する。	■壁面後退やオープンスペース・セミパブリック空間の充実 （まちと海に開かれた外部の多目的広場や中央のパッサージュ広場をフレキシブルに活用することで、日常利用、スポーツ、コンサート、コンベンションに機能転換可能な、高稼働でマルチユースな計画としている。） □その他（ ）	提案書P2 下段左 ■高稼働、マルチユースのフラットプラン	適
		②	・マイアミ通りからの回遊動線では、活気あるまちなみをつくるために、本港区エリア入口と、歩行空間の連続性を意識し、エリア内の建築物の低層部の機能や形態、外構の工夫を行うとともに、橋・デッキ等の活用により動線上の眺望に変化を与える。	□マイアミ通りからの回遊動線周辺ではないため、当該配慮事項は対象外 ■マイアミ通りからの回遊動線では、エリア内の建築物の低層部の機能や形態、外構の工夫、動線上の眺望の変化 （マイアミ通りを抜けた先にパッサージュ広場を設け、ウォーターフロントパークへと連続的につながる、まちの延長としての場を計画。スロープと大階段により市街地・海側・各方面から接続を可能にし、桜島を望む回遊性の高いデッキ空間を形成している。）	提案書P1 ① 及び 添付資料2 アイソメ透視図	適
		③	・建築物の壁面や屋上の緑化に努め、敷地内に緑地スペースを設ける。	■建築物の壁面や屋上緑化、敷地内に緑地スペースを設置 （多目的広場（緑地）を計画している。） □その他（ ）	提案書P2 アイソメ透視図	適

景観への配慮事項適合チェックリスト(対象事業:スポーツ・コンベンションセンター整備事業)

項目			景観形成の配慮事項	事業者ご自身でご記入いただく欄		適・不適等
				チェック内容（各欄ごとにいずれか一つの口が■とならなければ「適合」となりません）	根拠資料	
(6)	建築物等のファサード	① ②	・建築物等のファサードについては、単調なデザインとならないよう分節化などによりメリハリのある壁面とし、さらに低層部のオープンスペース化により圧迫感の軽減に努めるなど、回遊動線(めぐりの路)からのまちなみ景観に配慮する。 ・また、動線については単調とならない様、ランドスケープの工夫を行う。 ・公衆トイレ等は、周囲の景観と調和のとれたものとする。	■回遊動線からのまちなみ景観への配慮 (1階部分をオープンスペース化することで、圧迫感を軽減させる計画としている。) ■動線について、ランドスケープの工夫 (四方のどこからでもアプローチ可能な桜島テラスを計画している。) □公衆トイレ等の周辺景観との調和 (具体的に、〇〇を工夫している。)※()内に具体例を記入すること。 ■その他() (屋根高さを抑えることで、近隣建物から桜島への眺望確保にも配慮。)	提案書P1 上段透視図 及び 添付資料2 アイソメ透視図 及び ②みんなの原風景である桜島への眺望を守ります テキスト	適
(7)	色彩		・色彩は、統一性や周辺との調和に配慮しつつ、個性を演出できるよう工夫する。	■色彩における工夫 (桜島の雄大な景観との調和を考え、色数を絞って低彩度を組み合わせる計画とする。)	提案書P1 上段・中段透視図	適
(8)	屋外広告物	① ②	・本港区エリア内には屋外広告・貼紙等を、原則として設置しないものとする。 ・店舗名などの自家用広告物については、景観形成に留意し色彩を抑え落ち着いた色使いとするなど、質の高いデザインとする。	□屋外広告・貼り紙等は設置しない。 ■自家用広告物における質の高いデザイン (鹿児島市屋外広告物条例等を踏まえた計画とする。)		適

景観への配慮事項適合チェックリスト(対象事業:スポーツ・コンベンションセンター整備事業)

項目			景観形成の配慮事項	事業者ご自身でご記入いただく欄		適・不適等
				チェック内容（各欄ごとにいずれか一つの□が■とならなければ「適合」となりません）	根拠資料	
(9)	屋根・屋上		・城山の斜面緑地や、市街地側の建築物などからの見下ろし景観、海上からの眺望を意識して、屋根や屋上をデザインするとともに屋上の緑化に努める。 ・また、屋上などに設置される太陽光パネルは、反射光に留意するように努める。	■屋根や屋上のデザイン、及び屋上の緑化 （桜島の雄大な景観との調和を考え、山の稜線と呼応する屋根架構としている。） ■太陽光パネルの反射光への留意 （近隣施設に対して太陽光の反射に配慮する。） □その他（ ）	提案書P1 上段・中段 透視図	適
(10)	駐輪施設		・駐車場・駐輪施設の設置にあたっては、樹木や花壇などによるバッファゾーンの設置等、ランドスケープを工夫することにより、歩いて楽しめる様な空間となるよう努める。	□駐車場や駐輪施設は設置しないため、当該配慮事項は対象外 ■バッファゾーンの設置等、ランドスケープの工夫 （駐車場に近接して多目的広場を設置し、歩いて楽しめる様な空間となるよう配慮している。）	提案書P2 アイソメ透視図	適
(11)	夜間景観	① ②	・本港区エリア内の夜間景観を演出するため、照明の工夫に努めるとともに、夜間の賑わいの演出に配慮する。 ・鹿児島旧港施設の歴史的建造物等を活用し、落ち着いた魅力的な夜間景観となるよう演出を工夫する。 また、自家用広告物であっても、派手なネオンサインは設置しないものとする。	■エリア内の夜間景観を演出するため、照明を工夫し、夜間の賑わいを配慮 （昼夜とも本港のシンボルとなるような照明計画。） □歴史的建造物等を活用し、落ち着いた魅力的な夜間景観の演出 （具体的に、〇〇を工夫している。）※（ ）内に具体例を記入すること。 □自家用広告物のネオンサイン （具体的に、〇〇を工夫している。）※（ ）内に具体例を記入すること。 □その他（ ）	提案書P1 夕景 透視図	適

景観への配慮事項適合チェックリスト(対象事業:スポーツ・コンベンションセンター整備事業)

項目			景観形成の配慮事項	事業者ご自身でご記入いただく欄		適・不適等
				チェック内容（各欄ごとにいずれか一つの口が■とならなければ「適合」となりません）	根拠資料	
(12)	道路及び緑地・緑化	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	・歩行者や、利用者の安全性と快適性を高めつつ、その周辺のまちなみの特性に配慮した良好な景観の形成を図る。 ・歩行空間には、周辺の景観や歩きやすさに配慮した素材を使用する。 ・ガードレール・交通標識（法令に基づくものは除く）・信号・街路灯は、歴史・文化性を採り入れ、周囲の景観に配慮するとともに、個性ある景観づくりに寄与する様なデザインとするよう努める。 ・標識類は、形状や色彩が周囲の景観を損なわないことを基本とする。 ・緑地・ポケットパーク等のオープンスペースを設けることにより、快適性と開放感を確保する。 街路樹は緑陰を形成し、かつ地域特性やメンテナンスを考慮して、火山灰に強く、耐潮性のある樹種を基本とする。	■周辺のまちなみの特性に配慮 （建物高さを抑制し、周囲への圧迫感を軽減している。） ■歩行空間の景観や歩きやすさに配慮した素材 （火山灰ブロックを活用し、景観に馴染む色彩で計画している。） □ガードレール・街路灯等のデザイン （具体的に、〇〇を工夫して、景観に配慮している。）※（ ）内に具体例を記入すること。 □標識類の形状や色彩 （具体的に、〇〇を工夫して、景観に配慮している。）※（ ）内に具体例を記入すること。 ■オープンスペースを設置し、快適性と開放感を確保 （中央のパッサージュ広場は、ガラスの開閉により用途に応じた使い分けが可能な設えとし、日常的にはマイアミ通りからウォーターフロントパークへの通り抜けができる計画。天窓から自然光が差し込む明るく快適な滞留空間として賑わいを生み出す場を計画。） □街路樹は火山灰に強く、耐潮性のある樹種を基本 （具体的に、〇〇の樹種を使用して、地域特性に配慮している。）※（ ）内に具体例を記入すること。	提案書P1 透視図	適
(13)	イベント時の緩和		・オープンスペースはまちの賑わいを創出するために、イベントを行う空間として積極的な活用を行う。	■オープンスペースのイベント空間としての活用 （鹿児島マラソンやかごしま春祭大ハンヤなどの際敷地全体でイベントを開催できるよう多目的広場やパッサージュ広場などのオープンスペースを設けて、配慮している。大階段は日常の滞留空間に加え、花火大会など海辺のイベント時には観客席としても機能し、ウォーターフロントパークと連続する多目的な広場を計画。） □その他（ ）	提案書P2 ④ アイソメ透視図	適
(14)	その他	① ② ③	・多様な利用者が利用しやすいように、スロープの設置や立体動線の明確化、点字ブロックの設置や音による案内、自動ドアの設置や案内板の多言語化、ピクトグラム化を行うなどユニバーサルデザインに配慮する。 ・各所で、子どもをはじめ多世代が楽しめる様な場の創出に努める。 ・本港区エリア内の設置物（自動販売機など）については、まちなみの美観を損ねないように配慮する。	■ユニバーサルデザインへの配慮 （建物全体にスロープを巡らせ、地面に連続した回遊性をもたせることで、施設そのものを「立体的な公園」のように計画します。車椅子利用者や子どもから高齢者まで、皆に優しく、誰もが自然に回遊できる空間として計画。） ■多世代が楽しめる様な場の創出 （多目的広場、パッサージュ広場、桜島テラスなど多世代・多様な人が楽しめる場を創る。） ■設置物について、まちなみの美観を損ねない配慮 （まちなみの美観を損ねるものは配置しない。） □その他（ ）	提案書P2 ④ ■どんな人にも開かれたインクルーシブパーク	適

おおらかな屋根がみんなを受け入れ、いつも賑わう、まちの屋内広場
～ウォーターフロントと一体となり、新たな体験価値を生み続ける場～

※プロポーザル方式は、最も適切な提案者（人）を選ぶ方式であり、提案内容が必ずしもそのまま設計案となるものではありません。

資料 3



桜島と調和するおおらかな屋根の佇まいとその下に展開する人々の活動



夕暮れの錦江湾から望む美しい大屋根が新たなシンボルとなる



マイアミ通りから吊り屋根の谷部越しに桜島を望む

1 まちとうみをつなぐパッセージが新たな賑わいを生み出します

・中心市街地からマイアミ通りを抜け、広場を介してウォーターフロントパークへと連続する、まちの居場所をつくります。



まちの屋内広場
このエリアで親しまれているウォーターフロントパークという屋外広場に対し、本施設をまちの屋内広場として展開し、屋内外が連続・連携するスポーツコンベンションセンターを計画します。

スポーツと観光をつなぐ
スポーツタウンの中心として、周辺のホテルやフェリーターミナルとも連携し、スポーツと日常、観光が自然に交わる、地域にひらかれた場所をつくります。

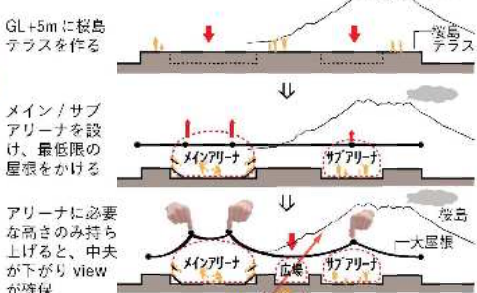
マイアミ通りとの連携
週末イベント時には歩行者天国となるマイアミ通りと連携し、中心市街地とウォーターフロントエリアをつなぎ、鹿児島島のまちに賑わいを生む拠点となります。

2 みんなの原風景である桜島への眺望を守ります

・桜島の雄大な景観との調和を考え、山の稜線と対応する吊り構造の屋根とします。

・メインアリーナを北側配置し、隣接建物からの眺望、騒音の影響に配慮します。

・メイン/サブアリーナの間に吊り屋根の谷の部分を持ってすることで、桜島への眺望を最大化します。



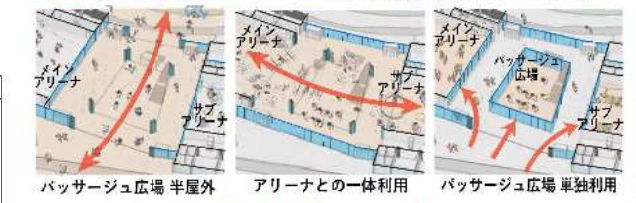
	本提案	横断案	ドーム案
平面			
マイアミ通りより			
周辺建物6階より			
景観	○ マイアミ通りや近隣など様々な場から桜島への眺望を確保可能	× マイアミ通りや近隣マンションから桜島への眺望が失われる	△ 近隣マンションからの桜島の眺望が失われる
騒音問題	○ メインアリーナを北側に配置し、近隣住居との距離を確保	△ メインアリーナが近隣住居に近く、騒音・振動リスクが高い	△ メインアリーナが近隣住居に近く、騒音・振動リスクが高い
経済性	○ 低層化により抗不景（地盤改良）面積削減によりコストを削減	△ 自重増により深い杭基礎が必要	△ 矩形アリーナに対し、ドームが平面上過剰になってしまう

3 立ち寄るといつも何かやっているようなワクワク感。まちに開かれた広場をつくります

■いつも賑わうパッセージ広場

・マイアミ通りの延長線上にある屋根付きの広場は、市街地の賑わいを受け入れる「まちの広場」として機能します。

・ガラスの開閉により、用途に応じた使い分けが可能な設えとし、日常的にはマイアミ通りからウォーターフロントパークへの通り抜けができます。



■観客席にもなる海側多目的広場の大階段

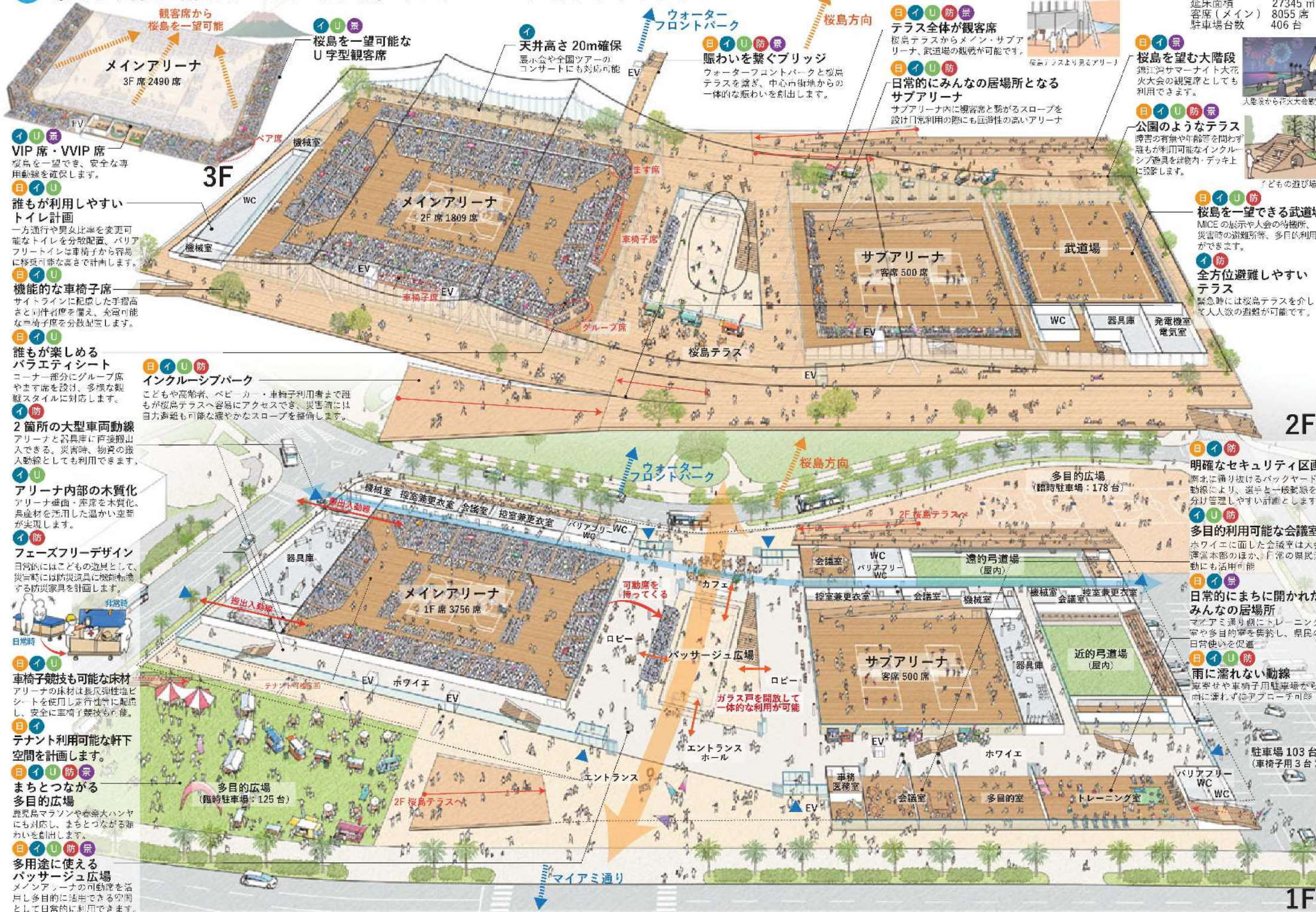
・スロープと大階段により市街地や海側等、各方面からアプローチを可能にし、桜島を望む回遊性の高いデッキ空間を形成します。

・大階段は日常の滞留空間に加え、花火大会など海辺のイベント時には観客席としても機能し、ウォーターフロントパークと連続する多目的な広場をより活用的な空間とします。



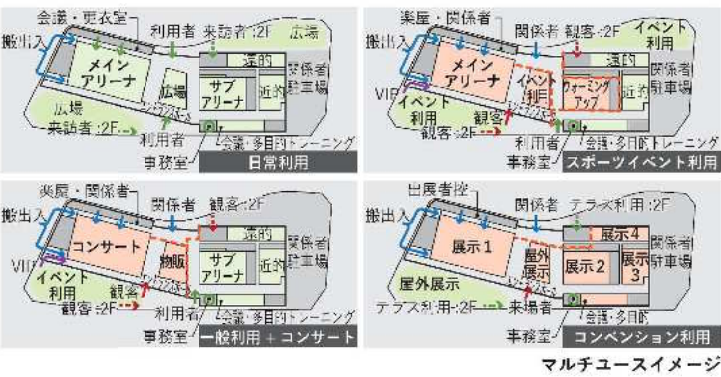
資料3

誰もが気軽に訪れることができる、インクルーシブなフラットプラン



■高稼働、マルチユースのフラットプラン

- ・主要諸室を 1 階に配置し、中央のバサージュ広場をフレキシブルに活用することで、日常利用、スポーツ、コンサート、コンベンション等すべてに使いやすい計画とします。



■どんな人にも開かれたインクルーシブパーク

- ・建物全体にスロープを巡らせて地上から連続する回遊性を確保し、車椅子利用者や子ども、高齢者まで誰もが自然に巡ることのできる「立体的な公園」として計画します。
- ・明るい自然光の差し込むサブアリーナは、平日の日中やイベント・競技などの予定の入っていない時間帯は子供たちの広場として開放することもできます。



■いつもの居場所がもしもの居場所に

- ・フラットプランにより、災害時においても、上下移動負担のない避難所対応が可能となります。
- ・バサージュ広場は一時避難や、屋根付きの炊き出しスペースとしても活用可能です。
- ・非常時備品一体型家具を配置。いつもの利用がもしものに繋がる、フェーズフリーのデザインとします。



5 桜島の絶景をのぞむ世界で唯一のアリーナ空間

- ・東面の大開口から桜島を一望できる眺望は、敷地の魅力を最大化し、ここにしかない個性と美しさを実現します。



完全暗転と演出を同時に実現する大カーテン

- ・一般的な絞リ緩張の仕組みを用い、単純な機構で開閉を可能にし、競技・イベント時の完全暗転を実現します
- ・防音・吸音性能も担保します。
- ・景のマークと同じ青のグラデーション色は、空と海を想起させます。

自然光を取り込むいつも明るいアリーナ

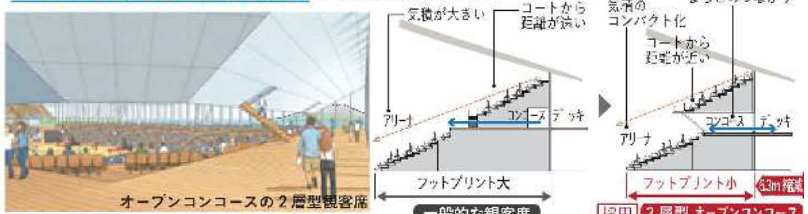
- ・方位的に年間を通してほぼ直射光が入らない配置特性と外付けルーバーによって、天空光の明るい空間を実現します。
- ・日常時は、自然光（天空光）を取り入れ、照明なしで明るさを確保します。
- ・競技時は、グレアが生じない人工照明とするハイブリッドな照明計画とします。
- ・災害時には明るく安心な避難所になります。

桜島を望む U 字型観客席

- ・観客席 2 層目を桜島側に開いた特徴的な U 字型客席配置とします。1 層目は 4 周を囲い、大会や興行時の臨場感の確保も可能です。

まちと繋がるオープンコンコースの 2 層型観客席

- ・2 層型のオープンコンコース形式の観客席により、アリーナと外部が一体的につながる計画とし、同時にフットプリントのコンパクト化や臨場感向上も実現します。



だれもが楽しみやすく観やすい客席計画

- ・グループ席やます席等のバラエティシートを計画し多様な観戦・観覧スタイルに対応します。

6 強い日射や雨から守り、人々の活動を生み出す「簾」の大屋根

■吊り構造による軽快な屋根構造

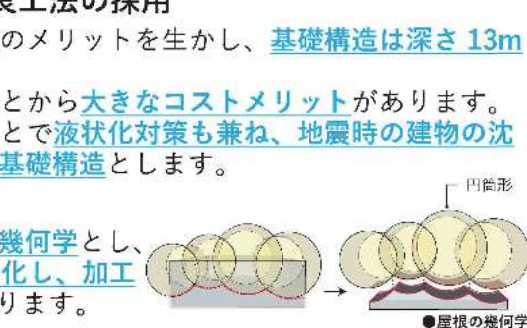
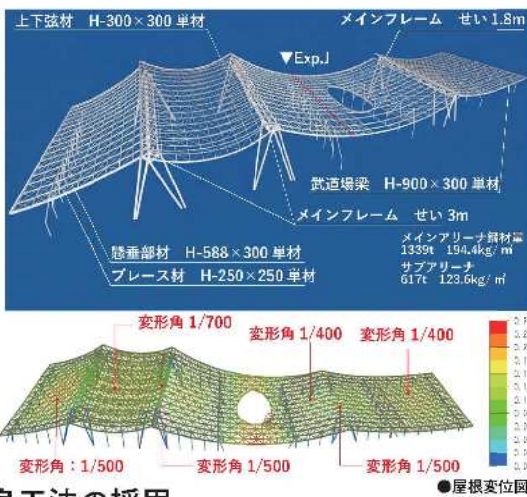
- 大屋根架構は懸垂状の形をした**吊り構造+トラス併用構造**とします。
- 軸力が支配的となる吊り構造**とすることで、大スパンを単材による繰り返しの架構とし、**鋼材量の縮減と加工の単純化**を図ります。
- メインアリーナ中央は、**イベント利用の吊り荷重や台風時の吹上荷重に対し、トラス架構を併用した構造**とします。
- 吊り構造を支えるメインフレームは逆V形柱+平行弦トラス**を採用します。
- 外周部に逆V形の鉄骨ブレースを設け、吊り構造効果の向上と耐震性の向上を両立します。**(耐震性能Ⅱ類)**

■平屋のメリットを生かした地盤改良工法の採用

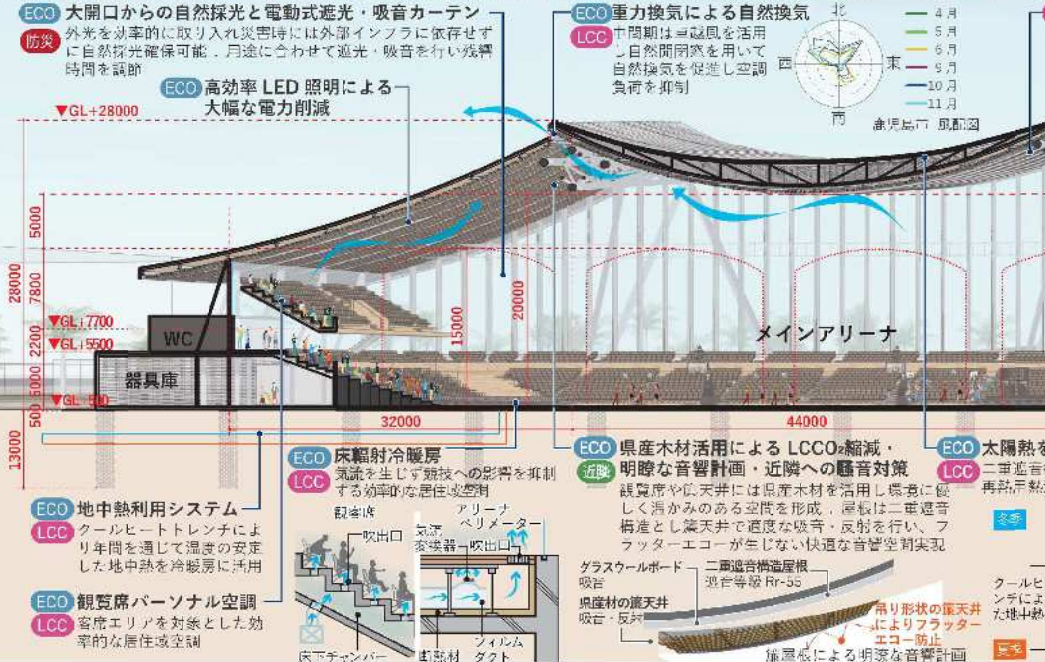
- 単位面積当たりの重量が軽くできる平屋のメリットを生かし、**基礎構造は深さ13m程の地盤改良工法**を採用します。
- 杭基礎に比べて支持深さを浅くできることから**大きなコストメリット**があります。
- 円柱状の柱状改良を格子状に配置することで**液状化対策も兼ね、地震時の建物の沈下を防ぎ、防災機能の維持継続を鑑みた基礎構造**とします。

■幾何学の整理による施工の合理化

- 屋根架構は円筒断面の連続による単純な幾何学**とし、更に既製のH形鋼を用いて、**加工を簡素化し、加工費削減とユニット化による工期短縮**を図ります。



鹿児島県の気候風土を活用した簾屋根と桜島テラスによる大空間の合理的・機能的な構造・環境・防災計画



10 フラットプラン+簾屋根+自然エネルギー活用でライフサイクルコスト30%削減

■フラットプラン+簾屋根で建設費10%削減

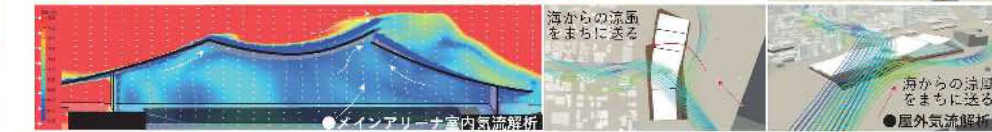
- 吊り構造と平行弦トラスを併用した屋根形状は、他形式に比べて**鉄骨量を抑制でき、単一断面によるユニット化で施工性・経済性に優れた構造形式**となります。
- フラットプランでの共用部面積効率化による延床面積の10%縮減**や**吊り構造による建物の軽量化に伴う地盤改良の採用**等により建設費を10%削減し、将来の物価上昇を見据えたコスト管理を行います。

	フラットプラン+吊り屋根形状 (吊り構造+平行弦トラス構造)	フラットプランドーム形状 (ラチスシェル構造)	積層プラン+フラット形状 (平行弦トラス構造)
屋根形状			
延床面積	共用部の面積効率化により10%面積縮減	ドーム型の場合、床面積増加	積層により地下等の共用部が多くなる
鉄骨量	約182kg/m ²	約201kg/m ²	約203kg/m ²
基礎形式	建物全体を軽量化でき、地盤改良で可能	計画次第で地盤改良でも可能	深い杭基礎が必要のため建設費増加
建設費/施工性	鉄骨取合のユニット化により施工性が容易で工期短縮	鉄骨取合のユニット化により施工性が容易で工期短縮	鉄骨取合のユニット化により施工性が容易で工期短縮

7 日常時には自然光や風を取込み、イベント時には機械設備を併用するハイブリッドな環境システムで省エネルギーを実現

■風を流し、まちに導く形

- マイアミ通りと屋根の谷部を揃える事で屋根全体が海風を受け**まちへ涼風を流すウインドキャッチャー**となります。
- まち側に向け低くした片流れとし、まちへの圧迫感を抑えつつ、**火山灰や雨水を効率的に排出する屋根形状**とします。
- 屋根頂部を捲り、風の出口をつくり、**効率的な重力換気を促し、日常的には、自然通風も可能なアリーナ空間**とします。

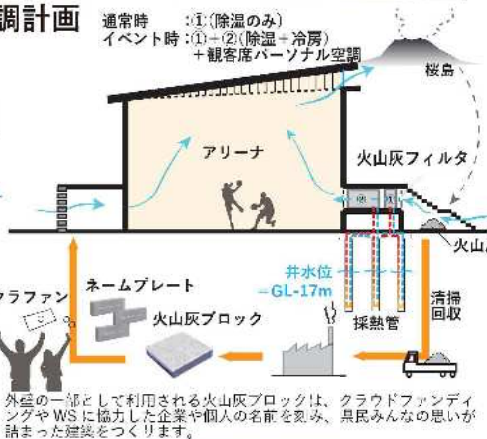


■地中熱を活用した快適で省エネな空調計画

- 地下水が豊富な海沿いの立地を活かし、**日常時には地中熱を利用した除湿運転、イベント時は地中熱ヒートポンプを利用したハイブリッドな空調計画**とします。
- 地中熱利用により**少ない電力で空調でき、避難時も快適な空調空間を維持**します。

■県民みんなで作る火山灰循環フロー

- 海側の大階段は、風の取込口になります。
- 火山灰フィルターでろ過し、室内へ新鮮な空気を取り込みます。**
- 火山灰の**回収・再生の循環の仕組み**をつくり、**火山灰ブロック**として利用します。



■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

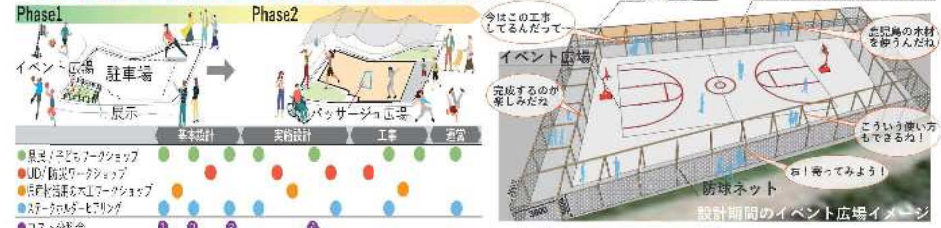
■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

8 地域の人々と一緒になってつくるみんなの屋内広場

■地域の人々とともに育てるフェージングデザイン

- 計画段階から**ワークショップや社会実験を通じて、県民や関係者の声を反映しながら進めます。**
- 設計期間中に街側の一角を活用し、**完成後の中央の広場と同規模の広場を設け、実際に使いながら県民と使い方を検討**します。



■プレカット端材の循環活用・参加型簾

- 鹿児島県内で盛んなCLT製造の過程で発生する**プレカット端材を活用し、アリーナ天井の仕上げとして「簾」のように用います。**
- 県民も参加しながら簾をつくり上げていく**プロセスを通して、木の温もりを感じられ**県民に愛され親しまれる空間を実現**します。
- 県産材やプレカット端材の活用により**LCCO2を40%削減**できます。



■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

■省エネルギー・自然エネルギー活用

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策

- ECO 省エネルギー・自然エネルギー活用
- LCC ライフサイクルコスト削減
- 防災 災害対策